

その大半が、社会制度や資源の利活用を含む情報の不足によるもので、解決可能なこともあると考え、早期で的確なるQOLに対する情報の提供と確保の手段をはじめ、人や物との出会いの場が提供出来ればと、保護者を対象とするQ-u p塾を開催しました。

1) パソコン（PC）研修コース

重い障がいをもつ我が子の学習支援ツール、コミュニケーション手段、将来の就労に有益と考えられるパソコンならびに周辺機器や特別に開発された支援用ソフト・ハード等について、子供への指導も含め、保護者（特に、母親）が簡単なトラブル等で困惑しないようになってもらうためのパソコン研修と、最新情報支援ツール・デバイスとしての可能性を秘めたタブレット型PCについて紹介と体験の場を開催。

2) ウォッチングコース

特別支援学校高等部の卒業を間近に控える保護者からの、「在宅やただ預かるだけの福祉施設ではなく、動くことが出来なくても、人として一人の人間として社会の中に生き場所を見つけ、存在感を感じながら自らも人のために何か発信が出来るような生き方をさせたい。」との声に応え、先進事例に触れてもらう為に、インクルージョンの理念の基、「どんなに重い障がいを持っていても、本人もその親も普通に生活できる社会をつくらせていきたい」と、様々な困難な課題と制度の壁に突き当たる中、常に親たちの想いと行動を支え取り組みをしている静岡県の社会福祉法人「インクル ふじ」が運営する2つの生活介護事業所を、リフトバス「ながら号」を利用し視察・見学を実施。

3) Q-u pセミナー「姿勢保持で変わる障がい児の未来」

障がい児・者にとって早期における正しい姿勢保持の対応が、二次障害を防ぐばかりか意欲や能力の向上につながり、人生の可能性も大きく左右することの大切さについて、自らも障がいを負い車椅子生活を送る中、日本人唯一シーティング・スペシャリストの資格をもつ山崎泰広氏を講師に招き、講演とシーティングクリニック・体験の場を開催。



シーティング体験・クリニック風景

4) ドキュメンタリー映画「普通に生きる」の上映・講演会

特別支援学校卒業後の我が子の進むべき道・居場所がないことにより「自分の思い・心を大切に、人としての生き甲斐を感じられるところであって欲しい」と願う保護者の切実な声を受け、先進的好事例として視察・見学に出かけた静岡県の社会福祉法人「インクル ふじ」の立ち上げからの取り組みを5年にわたり追跡取材し制作したドキュメンタリー映画「普通に生きる」の上映に加え、これまでの取り組みや熱い思いを語ってもらい、障がい児童と保護者のQOL（生活の質）向上と、それを支える教育・福祉・保健分野はじめ、医療や施設等関係者を含む一般社会の啓発につながるための情報提供の場となることを願い、小林不二也所長を招き、<映画「普通に生きる」に描かれた力>と題し、講演を開催。



「普通に生きる」 上映 & 講演会



一人でも多くの障がい児童が、自分の意志のもとに安心して自立・社会参加を目指すことは、保護者にとっても、親亡き後の我が子の将来に対する不安が払拭されるばかりか、何物にも変えがたい心の豊かさゆとりにつながると、今回改めて実感しました。

残念ながら今回は、積極的な解決・支援の取り組みにまでは今一步踏み込むことは出来ませんでした。参加した障がい児童の保護者を中心に、「何も出来なくても、

人として一人の人間として社会の中に生き場所を見つけ、存在感を感じながら、自らも人のために何か発信が出来るような生き方をさせたい。」「保護的措置ではなく、自らも学び成長できるような場が欲しい。」「創れないか。」と云う意識の変化が起こり始め、既に模索の動きが始まる中、それを支えるためにも岐阜県において医療・福祉・保健・教育・工学等の研究機関を含む分野間の連携と当事業のような支援事業（施策）こそ障がい児の分野に必要であり、個々に対するキメ細やかな支援に加え、関わる人材の育成を含めた新たな教育システムと施策の構築と、社会全体としての理解と支援の輪として広がることを心から願ってやみません。